

愛知淑徳でのかけがえのない 学びや出会いを糧に、 海外で教育を追究。

愛知淑徳で伸びやかに 学び、世界へ羽ばたく。

中高と短大、合わせて8年間、愛知淑徳で学びました。勉強だけではなく、中高では吹奏楽、短大ではダンスに夢中になり、学園祭や体育祭などの行事にも仲間と全力を注ぎました。高校時代は、特に読書に没頭。3年間で1000冊以上の本を読みました。そんな私を見て高1のときの担任だった高橋よしの先生は、「本ばかり読まずに勉強しなさい」と叱らず、「あなたは今、それに興味があるのね」と私の気持ちを受けとめ、理解を示してくださいました。私を一人の人間としてあたたかく見守ってくださいました。そうした素晴らしい先生方や先輩方に導いていただき、人生の基礎を築くことができたと感じています。個性豊かで元気な女子たちの自信と希望に満ち溢れた校風

のもと「淑徳魂」が育まれ、それが現在も私の支えになっています。

短大の国文科では近代文学を専攻し、比較文学への関心が高まって卒業後は留學。イギリスのマンチェスター大学院で英語教育学や教育心理学、応用心理学を追究しました。海外でも素晴らしい先生方との出会いに恵まれ、大学研究室や王立病院隣接のセンターで青少年のカウンセリングや、心理セラピーに携わる機会をいただきました。さらに、アメリカのコロンビア大学院で認知言語学のリサーチチームにも参加。その後、マンチェスター大学院で知り合ったギリシャ人学生と恋に落ち、結婚しました。移住したギリシャでは、若者たちをカウンセリングしたり、国連の難民キャンプの小学校で理科や算数を教えたり、恩師の「社会に役立つ、社会の一員にならなさい」という言葉を胸に多様な経験を重ねました。

未来ある一人ひとりの 力を引き出したい。

現在はイギリス・オックスフォードのコミュニケーション・カレッジ（短期大学）で講師として働いています。夫の仕事の都合でイギリスに住んで約10年、娘は中学生になり、今まで最優先にしてきた子育てもだんだんと落ち着いてきました。今、カレッジでは教員養成にも携わっています。教員志望の学生たちに必ず話すのは、よしの先生とのエピソードです。読書漬けだった私を否定せず、理解してくださったよしの先生の人間教育に、学生たちも共感。彼らと世代や国籍をこえて、一人の人間としての教育のあり方について熱い議論を重ねています。

愛知淑徳で学ぶ後輩の皆さんも、好きなことを貫き、全力で突き進んでください。その一歩一歩が未来の大きな力になるはずです。



高3の体育祭では、担任の後藤康夫先生の仮装をクラス全員で考案（左端が山田さん）。何事にも熱くなった学園生活は今も宝物です。



教員志望の学生は、バックグラウンドも年齢も多様です。さまざまな多くのチャレンジがありますが、教育の現場で輝く学生の様子にやりがいを感じます。

大学教員(イギリス) 山田 博美さん

愛知淑徳中学校・高等学校を経て、愛知淑徳短期大学国文科を1991年3月に卒業。イギリス・マンチェスター大学院で英語教育学や教育心理学、アメリカ・コロンビア大学院で認知言語学などを追究した後、結婚を機にギリシャへ。2009年からイギリスに移住し、短期大学で講師を務める。